

◆地域活動

女性部活性化への取り組み

1. 目的

八重山漁協女性部は組織は非常に大きい、部員は刺身屋等自営業者が多いという特性から、まとまりが悪く、マンネリ化、無目的な活動内容により、活動は低調である。

一部女性部員より、八重山漁協青年部同様、活性化を指導して欲しいという要望があったため、役員変更を条件に、目的の再検討による活動計画の樹立、離島再生支援交付金を活用した計画の実行により、女性部の活性化を図った。

また、計画は特性を生かした活動内容になるよう、また、ボランティアではなく、少なくとも賃金は捻出することに留意した。

2. 方法

活動計画樹立

○5月女性部役員定例会

組織活動の活性化には、目的の共有、組織の透明性、参加意識の向上が不可欠である。

そのため、新役員全員で女性部の目的「部員相互の連絡協調と活動を通して漁家経済の生活改善と知識の向上に努め、漁家婦人の地位を高め明るく豊かな暮らしを育てる」の再確認を行い、この目的を達成する上での問題点をブレインストーミングし、次に、問題点を解決するための方向性をブレインストーミングし、各自が自分の言葉で計画を作ってもらえるように図った。次回定例会までに、方向性ごとの具体的な解決策を各自考えるよう、アンケートを配布した。

女性部の特徴か、話が広がっていくので、論点を絞らせるのに苦慮し、20時から午前0時過ぎまで話し合った。

○6月役員定例会。

アンケート回収。具体策を決定。それに必要な物品についても集計した。(別添1参照)この具体策を総会にて審議し平成19年度計画として認められた場合、具体策に交付金を使用出来るか確認後定例会を持ち、活動計画を決定することに。

八重山支庁農林水産整備課 紫波 俊介

○女性部総会

具体策が平成19年度計画として認められる。

○7月5日：話し合いにより、離島再生支援交付金が食育活動、赤土対策、電池回収に対し支払われることになった。

○7月定例会開催。別添のとおり、女性部平成19年度活動計画を樹立。(実施日程は事務局が決定することになった。)

3. 結果

平成19年度計画と実績は別添2のとおり。

4. 考察・今後の課題

(1) 目標・問題の明確化、計画の明文化、組織の透明化により、活動が活発化し、「去年と同じ事をする」のではなく、「次はこうしよう」という発展的な議論が出来るようになった。また、役員間に物事をみんなで考えて民主的に決定する事に重要性を感じてもらえたことで、女性部活動の活性化への基盤は整った。今後は漁協事務局が女性部活動を指導できるかどうかが課題である。

(2) 自分で刺身屋を営み、母でもあることから、体験漁業での子供・大人への指導も素晴らしいものがあつた。

体験学習や、各種イベントでの食品提供ができる備品を交付金にて購入したため、今後は交付金が無くとも活動できるよう、赤土対策なども含め、活動内容の事業化を進める必要がある。

(3) 女性部は高齢化が進んでいることから、青年部との共同活動を増やし、活動の事業化を進め、青年部員の妻が加入しやすい環境を整えてもらいたい。

(4) 定例会では話が脱線し、午前0時近くになることがしばしばだったが、これも部員のストレス発散としての女性部活動の魅力の一つなのであろう。議論は進みにくい、意外な情報も多く得られるので、大変かもしれないが、普及活動では重要な位置を占めるだろう。

別添1 目的達成への問題点と解決法

問題点	問題解決の方向性	具体的な解決法
① 魚需要減 ・スーパーに客が集中 ・切り身販売が多い ・若い人の魚離れ ・魚料理の仕方が分からない客が多い(説明出来ればリピーターになることあり) ・料理法の説明が分からない ・マグロ以外が売りにくい。ギーラ・イノー魚(地元魚)が売れない ・魚が売れにくい	・食育。お客さんに料理法を教えると買う。さしみ屋に買いに来る ・レシピ作成	○上地 ・スーパーの良い所:衛生的/直ぐ調理出来るよう商品化されている。一人分。 ・さしみ屋の良い所:水揚げの日・その場所で切って貰え、サービスもある。/レシピを口頭で伝える事が出来る。/売方次第ではさしみ屋が良い。対面で販売出来る。年配の人はさしみ屋の良い点を知ってる。刺身はスーパーより集荷力がある。 ・学校でマグロ以外の水産物料理実習を行うことが重要。 ○紫波 ・調理実習:体験学習(市内学校以外は有料化目指す)/モズクまつり、お魚まつり(親子共々)/教育の現場から教育の一環として。学校との話し合いの場を設ける。少年自然の家でサバニクルーズ。 ・カタログ作成(八重山の魚、刺身屋マップ、レシピ、女性部・漁協加工品カタログ、資源管理取組) ・沿岸の魚(急冷・シャコガイ・モズク等漁協販売品を中心)としたレシピ開発 ・ゴミの問題。生ゴミの処理方法が問題。魚を貰ったら料理屋に持って行って切らす。 ・給食で地元水産物を提供して貰う(モズク等供給・調理が簡単な物から) ☐最近の若者は魚の味・レシピが分かれば買う ☐若い人の魚離れを止めるには、家に持ち帰って直ぐ料理が出来る状態にしたらどうか。 ・シャコガイの内容量を減らし手頃な価格にする。握りで1500円で一貫。 ☐適正な表示方法の記入の仕方。モズクの天然・養殖 ☐学校は魚の骨を取って来るようにしている→本当は親が教えるべき。
② 魚価が不安定 ・那覇へいつも送っている人が石垣で販売すると暴落する ・魚価が安定しない ・魚が安すぎる ・一旦魚の店頭販売価格を落とすと上げることは難しい ・急速冷凍機はあるが、魚が揚がった時加工が漁協の手が足りない。	・急速冷凍機の活用。	○上地 ・魚価低迷は一時的な事だと思ひ、仕事を休んで欲しくない/魚の量(天候)が不安定なので安定しないと思ひ/安い時は組合が買い上げし、独自の物を作って欲しい。 ☐魚が安い時は客が来ない。魚がよく釣れるのであげる人が多い。こしらえてくれと持ってくる人もいる。 ☐漁業調整規則の冊子を漁協においておく。 ○与那嶺 ・急冷商品加工パート。当日朝に連絡。時給650~700円で9時半~15時頃。3575~3850円。 ☐魚が安くなるのは天気次第だからしょうがない。 ☐魚価の安い時、土曜日に1,2時間急冷で働く?

問題点	問題解決の方向性	具体的な解決法
③ 水産資源減少	・漁獲量が減ってきている ・漁獲サイズが小さい ・漁協のセリの出し方も悪い。最初から小さい魚をはねていない	○上地 - 自然相手でその年で違う。専門的な問題。 ○紫波 - 漁獲が一番の原因ではないか？皆が守るよう、浜売りの段階でも協力(体長制限)が必要。魚を捕らない分高く売らなければならないので、資源管理シールを商品や女性部刺身店に貼り付加価値向上出来ないか？ □漁獲サイズ。海人、本人に一番に自覚して貰うしかない。魚のサイズを決める。 □市場課の職員を交えて意見交換会をしてみたい。 □販売する時は女性の力が必要。 □販売商品は女性部意見も取り入れた方が良いのでは。 □市場課・女性部・青年部の話し合いの場を設ける。
④ 環境問題	・赤土の流入 ・異常気象。マグロの豊漁は喜ばしいが、モズクが原因不明で切れてしまう。クチナジ・アイゴももう上がらなくなった。	・未討議 ○紫波 ・女性部で雨が降った時に海の写真・水のサンプルを取り市民へ周知、JA女性部に連絡、国・県・市に抗議する？ □農家に赤土流出を出来るだけ出さないように呼びかけ。 □異常気象はどうにもならない。 □無公害石けんを使うようにしないか。重曹とか。
⑤ 女性部活動	・部員同士の勉強会、報告会が無く、定例会も少ない。視察に行っても行ったきり ・会議を行っても議事次第すらない ・女性部活動の活動資金が少なくなった。	・定例会を定時に実施する ・事務局が積極的に開催し、会議資料もきちんと作成する。 ・交付金を利用 ・空港売店で大東寿司女性部特産品 ・漁港掃除活動 ○上地 ・日頃女性部活動に対して思ってる事。報告が無く会員も知りたい。交流も兼ね、情報交換の集まりを増やすべき。 ○譜久村 ・漁港掃除活動の次年度開始を目指す。 ○紫波 ・議事次第・議事録の作成 ・海人館にショーケースを置き直売所にする？ →1, 定例会を第2土曜日と決定し、実施する。 2, 視察研修の報告がないのは自費で行っているの報告しないのでは。助成金が有る視察に行ったは報告してる？ 3, 会議次第は3役と話し合い、取り決めしたい。 □活動資金作り、イベント参加(お魚まつり、モズクまつり、産業まつり)、浜清掃。
⑥ 漁業者以外	・一般人のマナーが悪い ・魚を釣りすぎ。 ・一般人が漁協へ魚を持ち込みすぎ。沖電職員が昼休みセリを見に来る。 ・一般人が組合員になって貰いたくない ・資格審査委員会はきちんと開いて貰いたい	・一般の人の浜売り制限 ・資源管理への参加(保護区を漁業者だけでなく一般人も守るよう周知徹底) ○上地 ・漁協と海人の話し合いを持たせる ○紫波 ・一般の人がむやみに魚を捕らないよう、資源管理を周知 ・理解して貰う。持ち込みを制限できないか □一般の方の魚を市場課の職員が断るようにした方が良い。又さしみ屋さんに販売してきた時は買わないよう協力して貰う。

問題点	問題解決の方向性	具体的な解決法
⑦ 漁業者のマナー ・電池等ゴミを海に投げ捨てている。 ・清潔の際塩素を海に垂れ流している。	・海人への声掛け活動 ・電池を小分けする等市がゴミとして処理するようになる。 ・チリ袋を持ってくるようになる。	○上地 各家庭で話し合いを持つ ○譜久村 ・漁港清掃を行い、女性部が前面に立って漁業者の意識改革を行う。 ○宮城 ・電池を小分けする等市がゴミとして処理するようになる。市と話し合いの場を設ける。各自で持って行かないと一般の人が捨てる。／チリ袋を持ってくるようになる。 □電池などのゴミは海から持ち帰るように張り紙を作る。 □漁協のゴミ箱のカギを壊している。
⑧ その他 ・仲買人のマナーが悪い(セリ後に指値をつける) ・漁協が毅然とした態度を取れない ・魚が無い時の収入手段		□搬入時間の定時を徹底する事により、指値もセリ前に入る事が出来るのでは？支所からの搬入時間も徹底。 □組合長、参事に報告し、競り市場規程の見直しが必要だと思う。



平成19年度計画作り



お魚祭りで準備風景



市にて、ゴミ問題、赤土問題への情報収集



大見謝氏、市担当職員を招いての赤土勉強会

別添2 結果：19年度女性部活動計画と実績とりまとめ

問題	計画	実績	備考
①	1 体験学習(親子調理実習(食べ方も含める)) お魚まつり	延期	次年度以降
	2 体験学習(親子実習) 学生対象	○	名蔵小学生27名
	3 体験学習(親子実習) 大人対象	延期	次年度以降
	4 体験学習(親子実習) 青年部と連携	○	石垣第2中学生10名
	5 カタログ作成(八重山の魚、刺身屋マップ、調理説明マニュアル、レシピ(沿岸の魚急冷・シャコガイ・モズク等漁協販売品)、女性部・漁協加工品カタログ、資源管理取組)	延期	次年度以降
	6 給食で地元水産物を提供して貰う(モズク等供給・調理が簡単な物から)	延期	次年度以降
	7 シャコガイの内容量を減らし手頃な価格にする。	延期	
	8 適正な表示方法の記入講習会	延期	
②	9 漁業調整規則を周知 漁協に張っておく。	○	
	10 急冷商品加工パート	×	漁協専従職員を配置した為
	11 資源管理への協力(体長制限未満の買取拒否、一般人への周知)	延期	計画開始の次年度以降
③	12 市場課職員・青年部との意見交換会開催	延期	計画開始の次年度以降
④	13 赤土対策・洗剤の勉強会を開き、女性部が出来る事を考える。	○	市担当・県職員(大見謝氏)を講師に招いた
	14 浜清掃の実施。	○	
	15 次年度漁港清掃実施に向けての話し合い	○	次年度実施となった。
⑤	16 議事次第・議事録の作成	×	担当職員の努力が必要
	17 海人館直売所化推進 市場課長との協議	延期	次年度以降
	18 定例会は第2土曜日	○	
	19 視察報告会の実施	○	報告書化が課題
	20 もずくまつりイベント参加	○	
	21 市政六十周年記念イベント参加	○	
	22 お魚まつり参加	○	
	23 イベント参加 第二回お魚まつり	○	
⑥	24 一般人からの買い取り拒否	延期	次年度以降
	25 ゴミ処理方法について市と調整する。	×	家庭ゴミで出すことに
	26 各家庭で話し合いを持ち、ゴミ袋を配布する。	×	家庭ゴミで出すことに
⑦	27 競り市規則の見直し要求	○	引き続き要求